

ドロの腹が、ボロ布のようにヘラヘラと泳いでいて、余りの汚濁に眼も鼻も共に泣きぬれる。全くゾッとする光景が見られる。

小野川は、江戸崎辺りでは、江戸崎側は水が褐色で、取れた魚は臭くて食べられないと、土地の人は云う。

こんなことは、多少の差はあるが、どこの小川でも似たり寄ったりで、土浦市を流れる桜川が一番きれいなのではないかと思う。これ以上汚したくはないものです。汚してはならない。然し、こうしてお話しを申し上げておる間にも、上流では、この川を死に到らしめるような計画がなされているかも知れません。

◇汚濁が生物にどう影響するか

霞ヶ浦に流入する河川の不潔さについてはこの位にして、これが霞ヶ浦の生物に対してどう影響しているかを見てみると、

先ず高浜入。昨夏、このイケスの鯉の大量死については、皆様もよく御承知と思うので、省略することにして、他の方面に目を転じよう。

舟子、木原、大山、西の洲、逆水門のある宝山あたりはいくらか良い方で、三次、飯出、馬渡、浮島、牛堀、玉造、西蓮寺、麻生、潮来あたりは、近頃は悪い。

◇目につく麻生の天王崎

一番目についたのは、麻生の天王崎で、その次が玉造、西蓮寺辺。御覧に入れる写真は、麻生の天王崎のもので、裏に日付けが書いてあります。(天王崎の死魚の群、淡水貝の死、砂洲にヒルモとエビモの発生の写真供覧)

5月12日、25日、6月2日には、霞ヶ浦の唯一の砂浜天王崎も、もうこれでおしまいだと憂慮される程の状態を見ました。殊に6月2日、私は麻生の水郷汽船の棧橋附近で、5人の女子中学生に頼んで、生きている貝を探してもらった。約1時間ばかり。然し生きたシジミは1個も見つからなかった。カワニナが1個、カワニシが1個。それだけだったが、この2個とも、殻は白くなり、もうあと幾日かの寿命と思われた。この子供の1人が、魚が死んでいたと云って、草の葉にのせて持って来たものは、何とそれはヘゼ(所謂ゴロ)でした。エビの死んだのは見つからないかと聞いてみたが、それはなかった。別の子が、エビの子がこんなにと云って、両手ですくって来たものは、アミで、5匹が手のひらの中で泳いでいました。水面をよく見ると、アミが多数泳いでいるのです。内水面水産試験場では、例年こんなことはない。プランクトン採取用の網にもかからないのだと云っております。

それから、天王崎約三〇〇米の波打際に、15―16個の